

6. 宿根かすみそう

・殺菌剤

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
9	フルピカフロアブル	散布	発病初期	5回以内	

・殺菌剤（参考農薬）

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	トリフミン水和剤	散布	発病初期	5回以内	花き類・観葉植物（ばら、きくを除く）
39	ピリカット乳剤	散布	発病初期	6回以内	

・殺虫剤（参考農薬）

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	アディオンフロアブル	散布	－	6回以内	
6	コロマイト乳剤	散布	－	2回以内	
3	トレボン乳剤	散布	－	6回以内	
21	ピラニカEW	散布	発生初期	1回	花き類・観葉植物（カーネーション、きくを除く）
4	モスピラン顆粒水溶剤	散布	発生初期	5回以内	花き類・観葉植物（ストック、りんどうを除く）
18	ロムダンフロアブル	散布	発生初期	5回以内	花き類・観葉植物（きくを除く）

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決めているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

注4) 蚕毒・魚毒については、「24. 花き類の総括注意」も参照する。

病害虫名（F：菌類病、B：細菌病、V：ウイルス病、O：その他の病原体）

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
疫 病 (F)	生 育 期 間	1. ほ場の排水性向上に努める。 2. 発病株は抜き取り、ほ場外に埋却する。	
立 枯 病 (F)	生 育 期 間	1. 発病ほ場では、土壤消毒を徹底する。 2. 発病を認めた場合は、直ちに罹病株を抜き取り、ほ場外に埋却する。	1. 本病は土壤伝染性の難防除病害である。 2. 本病の病斑部には、淡桃色の菌叢を生じるので、類似する他の立枯性病害と区別が可能である。
灰色かび病 (F)	生 育 期 間	1. 発病葉は伝染源になるので、見つけ次第除去する。 2. 過繁茂にならないよう茎葉を整理し、風通しを良くする。	1. 枯死株をほ場内に放置しない。
うどんこ病 (F)	生 育 期 間	1. 発病を見たら、直ちに罹病部を除去し、薬剤を散布する。 2. フルピカフロアブル 2,000 倍液を散布する。 [参考農薬] 1. ピリカット乳剤 1,000～2,000 倍液、又はトリフミン水和剤 3,000 倍液を散布する。	
茎 枯 病 (F)	生 育 期 間	1. 連作しない。 2. 前作の発病株残渣は、ほ場外に埋却する。	1. 多発ほ場では、3～4年の輪作を行う。

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
ハダニ類	生 育 期 間	<p>[参考農薬]</p> <p>1. コロマイト乳剤 1,000～1,500 倍液、又はピラニカ EW2,000 倍液を散布する。</p>	<p>1. 発生初期に防除する。</p> <p>2. 薬剤抵抗性の発達を回避するため、同一剤を連用しない。</p> <p>3. コロマイトは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。</p> <p>4. コロマイトは高温、乾燥時の散布は薬害を生じるおそれがあるのでさける。また、アルキルエーテル系の展着剤を加用すると薬害を助長することがあるので使用しない。</p>
アブラムシ類	生 育 期 間	<p>[参考農薬]</p> <p>1. アディオンフロアブル 1,500 倍液、又はモスピラン顆粒水溶剤 4,000 倍液を散布する。</p>	<p>1. アディオンは蚕毒及び魚毒に、モスピランは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。</p>
ヨトウムシ	生 育 期 間	<p>[参考農薬]</p> <p>1. アディオンフロアブル 1,500 倍液、又はトレボン乳剤 2,000 倍液を散布する。</p>	<p>1. アディオン、トレボンは蚕毒及び魚毒に特に注意する（特別指導事項参照）。</p>
シロイチモジヨトウ	生 育 期 間	<p>[参考農薬]</p> <p>1. トレボン乳剤、又はロムダンフロアブルの 1,000 倍液を散布する。</p>	<p>1. トレボンは蚕毒及び魚毒に、ロムダンは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。</p>

7. しゃくやく

・殺菌剤

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
19	ポリオキシシロリン酸水溶剤	散布	発病初期	8回以内	花き類・観葉植物

・殺菌剤（参考農薬）

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
10+1	ゲッター水和剤	散布	—	5回以内	花き類・観葉植物（ひまわり、ゼラニウムを除く）

- 注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。
- 注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。
- 注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。
- 注4) 蚕毒・魚毒については、「24. 花き類の総括注意」も参照する。

病害虫名（F：菌類病、B：細菌病、V：ウイルス病、O：その他の病原体）

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
灰色かび病 (F)	生育期間	1. 過湿にならないよう密植を避け、施設では換気を図る。 2. 株元の枯死葉は伝染源になるので早めに除去する。 3. 発病を見たら、直ちに罹病部を除去し、薬剤を散布する。 4. ポリオキシシロリン酸水溶剤 2,500 倍液を散布する。 [参考農薬] 1. ゲッター水和剤 1,000 倍液を散布する。	1. 薬剤耐性菌の出現を避けるため、同一系統の薬剤を過度に連用しない。
菌核病 白絹病 (F)	生育期間	1. 密植栽培しない。 2. 発病株を認めた場合は直ちに抜き取り、ほ場外に埋却する。	1. 未熟有機物を多用すると多発することがある。
根頭 がんしゅ病 (B)	植付前	1. 無病苗を使用する。	
コウモリガ	生育期間	1. 被害部を見つけ次第取り除き、食入幼虫を捕殺する。	